

各球団の総合満足度スコア

1. 各球団の総合満足度スコア平均値と平均値に基づくランキング
2020年1月下旬調査

順位	球団	総合満足度 スコア平均値	標準偏差
1位	ソフトバンク	73.98	13.39
2位	広島	71.98	13.77
3位	西武	71.38	15.85
4位	横浜DeNA	68.93	14.65
5位	巨人	66.19	16.40
6位	楽天	66.04	16.53
7位	日本ハム	64.99	14.98
8位	ロッテ	62.55	13.31
9位	ヤクルト	61.20	13.09
10位	阪神	60.73	15.17
11位	オリックス	54.17	17.00
12位	中日	49.97	17.63

2019年1月下旬調査

順位	球団	総合満足度 スコア平均値	標準偏差
1位	広島	74.89	14.67
2位	ソフトバンク	74.05	15.02
3位	西武	70.95	16.17
4位	日本ハム	66.41	16.85
5位	横浜DeNA	65.85	13.73
6位	ヤクルト	65.31	15.79
7位	楽天	61.78	15.73
8位	ロッテ	61.65	15.32
9位	巨人	56.57	18.09
10位	阪神	56.29	17.57
11位	オリックス	53.45	18.98
12位	中日	48.36	16.92

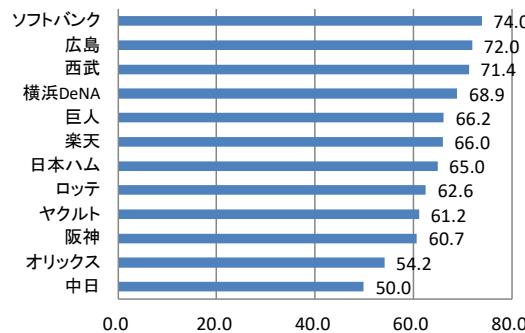
2018年1月下旬調査

順位	球団	総合満足度 スコア平均値	標準偏差
1位	広島	74.06	15.00
2位	ソフトバンク	72.73	16.12
3位	横浜DeNA	67.34	15.18
4位	阪神	64.70	15.39
5位	楽天	64.56	16.28
6位	日本ハム	64.47	16.31
7位	西武	63.39	15.06
8位	ロッテ	60.41	15.50
9位	ヤクルト	56.61	17.02
10位	巨人	56.23	17.72
11位	オリックス	54.76	16.16
12位	中日	47.27	19.82

2017年1月下旬調査

順位	球団	総合満足度 スコア平均値	標準偏差
1位	広島	73.82	15.52
2位	ソフトバンク	70.84	15.01
3位	日本ハム	68.31	13.74
4位	横浜DeNA	64.84	16.21
5位	ロッテ	63.41	16.05
6位	楽天	61.91	15.17
7位	ヤクルト	61.05	15.18
8位	阪神	58.60	16.72
9位	巨人	57.94	17.13
10位	西武	57.55	17.31
11位	オリックス	50.18	14.69
12位	中日	43.41	18.80

2020年1月下旬調査における各球団の総合満足度スコア平均値のグラフ

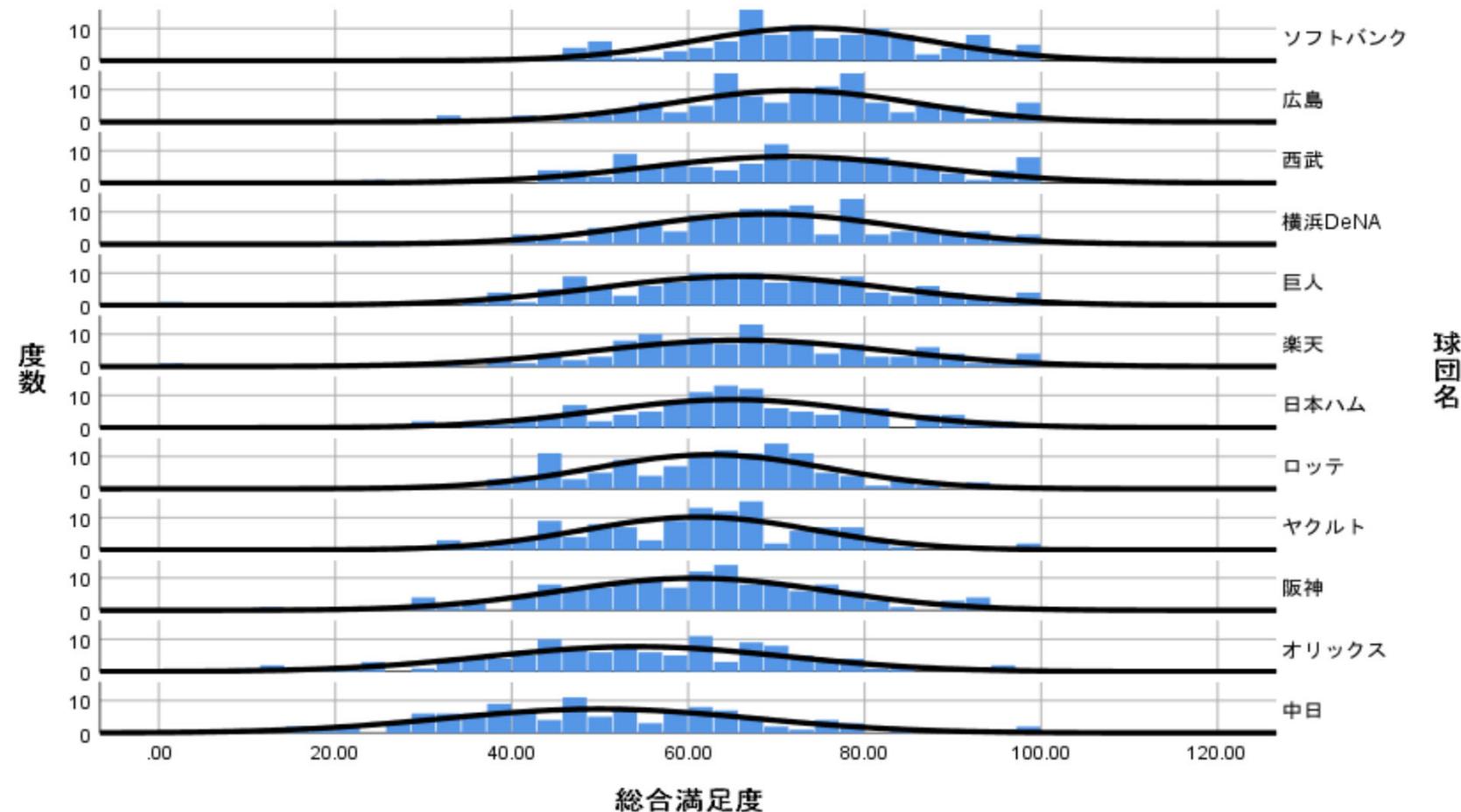


2つの球団のスコア平均値の差の検定: 5.0%最小有意差(I.s.d)の目安

$I.s.d = 1.96 * \sqrt{2 * 15.0^2 / 120} = 3.80$
 ただし、スコアが正規分布に従い、各球団からのサンプリングが独立で、それぞれのサンプル数は $n=120$ 、標準偏差は $\sigma=15.0$ とした場合の値である。

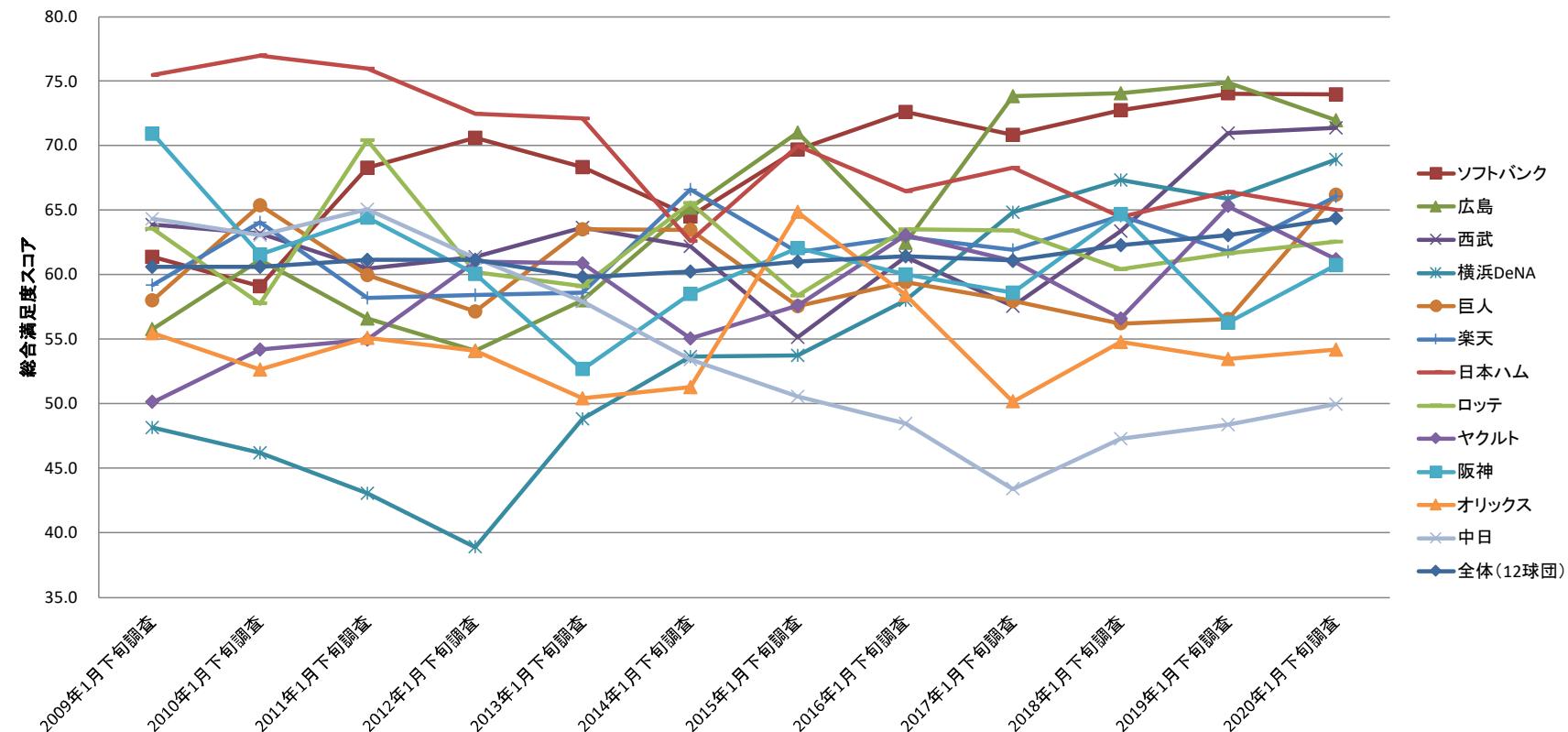
- 総合満足度スコアは、共分散構造分析モデルから求まる「総合満足度の潜在変数スコア」を標準化したものである。
- 具体的には、「総合的な満足度」と「総合的に見た場合の理想への近さ」の2項目の評価に重きを置き、さらに「チーム成績」「チーム選手」「球場」「ファンサービス・地域貢献」「ユニホーム・ロゴ」等の項目の総合満足度への影響度を考慮しながら、各項目の評価の加重平均として算出している。
- これらの項目のウェイト(因子スコア・ウェイト)は、共分散構造分析モデルにもどづき求めている。

2. 各球団の総合満足度スコアの分布（2020年1月下旬調査）



- 各球団の総合満足度スコアの分布は、おおむね対称な正規分布に近い形状をしている。
- 各球団の評価については、ソフトバンク、広島、西武、横浜DeNAの順で高評価である。

3. 各球団の総合満足度スコア平均値の経年変化



■ソフトバンク: 2020年1月下旬調査では総合満足度1位(74.0)となった。2019年シーズンでもリーグ優勝は逃したものの、CSを勝ち進み、3年連続で日本一となった。チームの強さだけではなく、柳田悠岐選手、松田宣浩選手、今宮健太選手など魅力ある選手が健在である。球場でのファンサービス、地域貢献活動の取り組みも良いとされ、その結果が、チーム・選手の魅力、ファンサービス・地域貢献などが高い評価を得ており、総合力で高水準を維持している。

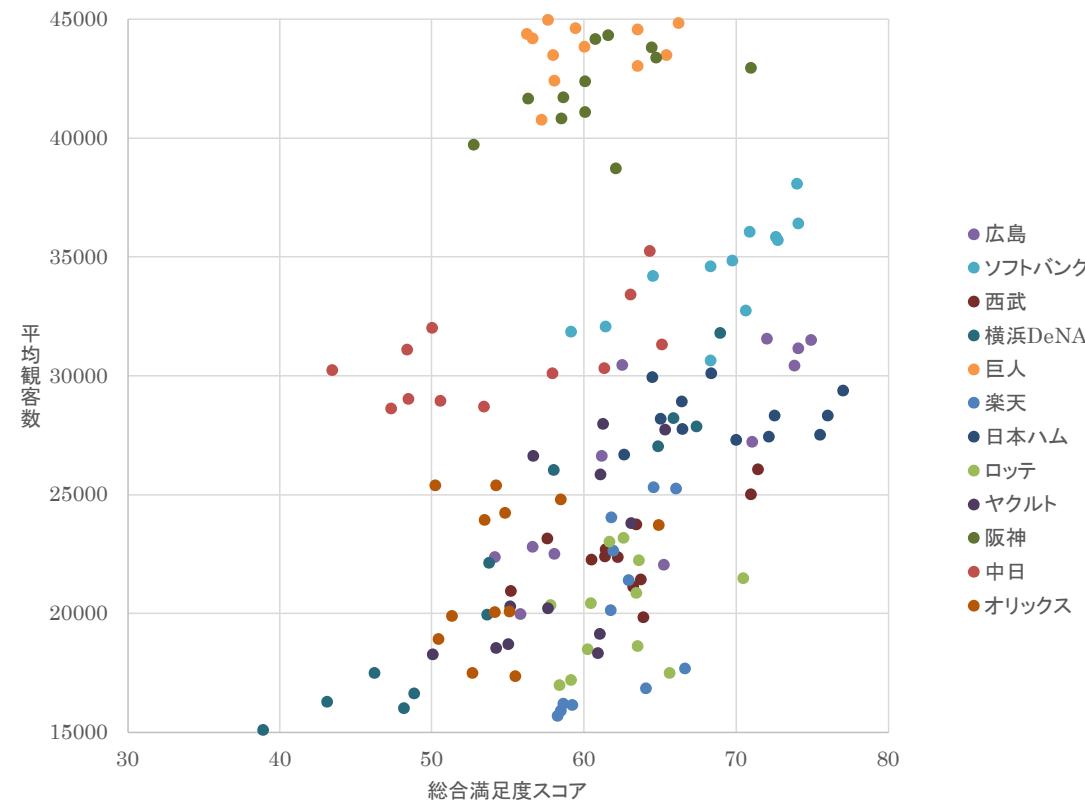
■広島: 2020年1月下旬調査では総合満足度2位(72.0)となり、昨年までの2年連続の1位から順位を落とした。2019年シーズンでは、セ・リーグでの成績が4位であったが、逆に言えば、総合満足度の高水準は維持されている。丸選手のFA移籍による影響が心配されたが、鈴木誠也選手、菊池涼介選手らの人気・主力選手は健在であること、球場の要素を含めたファンサービスに対する高評価が、高い満足度の維持の主要因であると考えられる。

■西武: 2020年1月下旬調査では総合満足度3位(71.4)となった。2年連続でリーグ優勝を成し遂げ、森友也選手、山川選手、源田選手らの活躍が光った。ただし、2年連続で日本シリーズ進出を逃していることが、総合満足度が伸びていない要因と考えられる。一方、球場の改修の一部が完成し、ファンサービスの高評価につながっている、改修はまだ継続中であり、今後のさらなるファンサービスの向上が期待される。

■横浜DeNA: 2020年1月下旬調査では4位(68.9)となった。近年のファンサービス、球場改修、ファンサービスの向上の成果が出ており、回答者の声としても、「横浜市民の誇り」、「選手とファンがとの一体感」などのコメントが目を引く。山崎康晃選手、宮崎敏郎選手、今永昇太らの魅力ある選手の存在も良い。さらに、優勝すれば、総合満足度1位となることが期待される。

4. 総合満足度スコアと平均観客数の散布図 (12年分の調査データと直近のシーズンのホーム球場の平均観客数を使用)

ホーム球場の平均観客数
出典:「2009-2020 ベースボール・レコード・ブック」、ベースボール・マガジン社



- 広島
- ソフトバンク
- 西武
- 横浜DeNA
- 巨人
- 楽天
- 日本ハム
- ロッテ
- ヤクルト
- 阪神
- 中日
- オリックス

球団ごとの群が存在するが、おおむね、総合満足度スコアと平均観客数の間には正の相関がある。
相関係数は $r=0.272$ (1%有意)となった。